

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



## WEEKLY

# なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ  
 承認 1982年 8月24日  
 例会日 火曜日 12:30  
 例会場 愛知厚生年金会館  
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121  
 会長 魚津常義  
 幹事 二村 聡  
 I.T委員長 油田弘佑

No. 29

### 超 我 の 奉 仕

### SERVICE Above Self

2005～2006年度 RI会長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

きょうの例会  
 第1126回 平成18年 3月14日(火)

#### 警察・消防優良職員表彰

先週の記録  
 第1125回 平成18年 3月7日(火) 晴

#### ◆“君が代”

#### ◆“それでこそロータリー”

#### ◆出席報告

会員	57 (54) 名	出席	45名
出席率	83.33 %		
前々回	2月21日 (修正出席率)		87.04%

#### ◆ゲスト紹介

(株)セントラルジャパン 代表取締役社長 服部正夫様

#### 吉田副幹事報告

- 4日(土)名古屋名北RC創立25周年記念例会に会長と二村幹事で出席されました。
- 次回例会終了後、理事役員会を開催致しますので理事役員の方はご予定下さい。

#### 奥村文也君退会挨拶

平成15年4月に入会、ロータリー経験のない私にお声をかけて頂き、また名古屋経済が景気の良い時期でもあり仕事のこともこの名古屋での3年間を大変楽しく過ごさせて頂きました。

3月25日付にて広島支店長に赴任する事になり母がおりますので故郷人事となります。

広島にお出かけの節は是非お立ち寄り下さい。

本当にお世話になり有り難う御座いました。

#### 魚津会長挨拶

皆さん今日は、春めいた日が時々現れ来る様になりました。

土曜日、名古屋名北ロータリー創立25周年が行われ、会員の皆様の誠意あふれる行事に心打たれて帰って参りました。その中に歴史小説の井沢先生の約1時間の講演が有りました。内容はイスラム教とキリスト教の永年に渡る争いが続いており、これは日本人の足して2で割る様な考えで我が国は仏教と神道が永く続いて

おり、神は只一人と一切の妥協とくらべると感慨深い物が有ります。

さて先日お話の中で仏教の教えを仏像と云う形で表しているという事で有りますが神仏の教えは我々人間に限らずあらゆる物に慈愛という形で常に我々は受けておるとい事は我々も常に感謝という事を忘れてはなりません。ある人が西方浄土を目指して永い間歩いていかれたんですがいつ迄いっても西方浄土なる物は有りません。そしてある人に浄土はどこに有りますかと訪ねた所、貴方の背中にありますと云われやっと納得がいったという事で有りました。

#### ◆卓 話

#### “仕事で学んだこと”

会員 川端 圭さん

初めは一年だけでいいと勧められて入社しましたが、約24年間大同生命に勤めて参りました。今迄一度も嫌にならずに続けられたのは私のポリシーを貫き通したからかなと思います。それには知識を身につける。

まず自分で決めたことは

- ①営業は9時～5時(当時3才の娘がいた)
  - ②お客様を出来るだけ選ぶ
  - ③保険を売らない
- でした。

お客様とのおつき合いはゴルフと決め、100を切れるようになる迄はと一生懸命練習をして気がついたらゴルフが大好きで、シングルになっていました。年に2回、10組ぐらいのコンペを開き、この5月で35回目となります。

お客様を選ぶ!これは生意気なようですがとても大切な事で、人との出会いを大切にしてお客様と長く良い関係が続ける為には、ウマの合う方、ヒフティヒフティでおつき合い出来る方でなければいけません。又ステキな方はステキな仲間、お友達がいらっしゃるんですね。自然と横のつながりを作っておきます。

色々な場所で沢山の方に出会い、名刺交換をしても私の大きな宝石箱にしまっておきます。何回かお会いするうちに「新役員が出来たから一度寄ってみて」と云って下さったり、時には「うちはいつ来るの」と云って下さる方迄いらっしゃるんです。

大同生命はびっくりするような給料はありませんが、私達を大事に気長に育ててくれる会社です。年に一回優待旅行と銘打って見聞を広めるためヨーロッパやアメリカへ海外旅行に連れて行ってくれますし、

200億以上の保有があるとアシスタントを一人つけてくれています。私一人では何も出来ないのですが廻りの沢山の方々に育てていただいていると云う感謝の気持ちはいつも持ち続けています。

その原点は私の母にあるのかも知れません。小さい頃から「情は人の為ならず」事あるごとに云っていました。又悪いことをしたらだめだよ、誰も見ていなくても神様が見ているんだよって、小さい頃からの教えて本当に忘れないものですね。この母の教えを胸にこれからも人様のお役に少しでも立てる生き方が出来たらいいなと思います。

最後に、私の経験から感じた結論です。伸びる会社の社長は明確な判断力を持ち、決断が早い！そして有能な部下がいる！でした。

#### “中国の諸事情” 会員 林 正路君

私は仕事の関係で年に数回、上海に出張します。そこで体験し、見たわずかな部分ですが中国についてお話しをさせていただきます。

何を置いてもはじめに、なぜ中国は「世界の工場」と呼ばれるようになったのか、その辺の話から繊維を通じて話させてもらいます。

ビックリするのが工場の大きさ、女子工員たちの「眼の良さ」です。彼女たちの中には、視力3.0という日本人には考えられない眼を持った人も少なくありません。三年間の労働許可証を受け地方から20才前後で出稼ぎに来た彼女たちは覚えが早く、手先も実に器用で、正確に機械を使います。昔と違って最近では「日本製より中国製の方が品質がいいといえます」

給料については月給平均して900元、日本円にして約1万4千円、1年間で約17万円です。三年間で約50万円ぐらいで、内陸部に住む人間にとっては大変な額で大きな資産になるのです。中国の大半が農民で、農民は年収で1万円程度なのです。

各企業が中国進出する最大の魅力は、このような豊富な人材と労働力の安さで、一流外資企業で働く中国社員の年収にしても70万～100万ぐらいです。物価が上がっているとはいえ、日本の人件費と比べたらまだまだ大きなひらきがあるといえます。

上海や北京は中国であって中国でない、むしろあそこだけが別世界であって本当の中国は沿岸都市部と内陸農村部の格差がすさまじい他民族国家であり、経済成長における成功者というのは、国民13億のうちわずか1割強にも満たないのです。

最後に、中国は偽造品の産地、世界第1位です。「世界の工場」と呼ばれる反面、中国は「ニセモノ生産大国」としても首位であり、ブランド品が次々にコピーされ、WTOに加盟したとはいえ今でも闇で公然と売られています。こういった被害というのは何も欧米諸国や日本だけではなくありません。中国人自身も日常的にありとあらゆるニセモノ被害にあっています。またこうしたニセモノはそれを求める人がいるからこそ作られ、卒業証書やパスポート、薬、洗剤、流行のDVDやベストセラーの本、中には偽札まで売っ

ている者もいるほどです。困ったことに、彼らはニセモノ作りが大の得意で、お構いなしにどんどんコピーを作ってしまう。罪の意識が極端に薄いのです。

私の体験ですが、数年前、上海から車で三時間ほどはなれた南通という街を訪れた帰り、タクシーののってしばらく走っていると、タクシーの運転手が突然車を道端に寄せて止まったので「どうしたんだ」と声をかけると彼は首を振り、無言のままドアを開けて車から降りるのでした。前を見ると公安が一人立っていました。運転手は呆然とした表情で免許証を見せながら公安と何か言い争いを始めましたが、財布を取り出して金を払いました。「今…何の罰金だ」罰金の理由は蛇行運転だそうです。「蛇行運転？ どうして？ 真っすぐ走ってたじゃないか」「まあ、よくあることですよ…さっきの公安がホンモノの公安だったかどうか怪しいですけどね」この辺は洋服の街で、工場は公安の制服ですら横流しをしているとの事です。

中国とは本当に面白い国です。

#### “池下と厚生年金会館と千種ロータリークラブ”

会員 紺矢寛朗君

会館20年史に水野創立会長様から標記の寄稿をいただいていた。歴代会長様、幹事様はじめ先輩会員各位が会館に懸けてきていただいた思いを受け、標記を当日のテーマにしました。

第2代竹内会長様はご著書「月見坂から」に、「今日（昭和58年7月5日）こういう厚生年金会館の例会場でまことにどうもむつまじく、和気あいあいたる雰囲気の中でお食事をするというようなことは、（昨年の今頃は）私ばかりでなく、会員の諸兄も（思わなかった）と思う」をはじめ、「実に痛快で男気」であったとされる鈴木（初代）館長との交流に言及いただいています。

第17代吉田会長様から、平成10年10月日中友好バスケット大会を厚生年金の体育館で熱く行った時の新聞記事をいただきました。

「もてなし」の会場である会館にとって奥深い雰囲気をかもし出すには絵や彫刻は最高の調度品、当館にもいくつかの絵がありますが、ロビーを飾る100号クラスのもの数は数点。その一つが劇場2Fのホワイエに飾られている油絵、「潮音」です。これは木戸史郎さん、明治33年渥美町生まれ、東京に学ばれ、千種区にアトリエを開かれた、佐野会員の岳父の遺作であって、佐野会員に寄贈していただいたものの一つです。また、佐野会員ご自身の作品「秋日」を文化センター玄関に飾らせていただいています。さらに当日、例会場に、黒野会員の、今期にふさわしい書「百合鷗さらば紅梅よりもこき愛知らしめむわれの海彦」を掲げさせていただきました。

このように当クラブと会館は一体でありました。当会館の存続につき会員各位のご理解とご支援をお願い申し上げます。

●ニコボックスは次回掲載致します。